

英彦の泉

聖母の騎士学園
同窓会会報
☎850-0012
長崎市本河内2-2-2
TEL 095-823-4523
FAX 095-823-4759
- 第17号 -

思無邪

同窓会会長 木場田友次



今から56年前、高校の卒業式を1ヶ月後に控え、国語と漢文の担当をしていた愛野先生が体調を崩され4、5日間、神学校に姿を見せないで、日曜日を利用して高校3年生、18名が見舞いのため先生の自宅を訪れた。先生は細身で、薄い頭髪を一糸乱さず整え、ネクタイにスーツ姿で教壇に立ち、あまり笑顔を見せないタイプであった。ところがクラス全員が玄関前に並び、級長の小出勝利君（故人）が代表して挨拶すると、満面の笑みを浮かべ、大きなジェスチャーで自宅の中に招き入れた。

先生は奥様に先立たれ一人暮らしであったとは言え、家の中はきちんと整えられ清楚で室内は広がった。クラス全員が正座をしていると、一人一人肩を叩きながら、膝を崩すように促し

た。電話のダイヤルを回しながら今日の昼食は先生が奢るからと、うどんの出前を頼んだ。うどんを食べながら部屋を見回していると、3文字の扁額が目に入った。「思無邪」、先生に読み方を尋ねると、先生の「座右の銘」で（思いよこしまなし）と読むんだ。と言いながら、「心に正しくないことや余計な雑念がない」という意味で、簡単に言う「素直な心」と説明して下さった。

私は高校時代、国語、漢文は大好きで漢詩をよく暗記した。扁額の3文字は強烈に私を虜にした。先生は洗礼を受けていませんでしたが、キリスト教の精神に共鳴し、高貴な心を持ちつつ神学生を教育していたことに今持つて忘れることが出来ない。私は玄關の真砂石にこの言葉を印字し座右の銘にし

ている。

折しも同窓会の会長を10年間なされた水浦久之氏が、6月16日他界された。81歳の人生であった。病気見舞いの折、「思無邪」について切り出すと、熱く語り始めた。頬の肉腫が紫色に盛り上がり、声は出るものの言葉に交えながら長く語った。私は彼の口元を見つめ単語を拾い集めた。要約すれば、無邪気という言葉に通じること

を、15分ほど喋り続けた。

1時間余り病室に居たので、おいとましようと思っていると、私の手を握り締めながら会長は無邪気の心が肝要であると、付け加えた。その1週間後、自ら親しい司祭を枕元に呼び、ゆるしの秘跡と塗油の秘跡を受け、その日に旅立った。大先輩が私に残した無邪気の心で、会長の任期を歩みたいと思っています。会員の皆様、宜しくお願ひします。

拝啓、水浦久之さま

聖母の騎士高等学校校長
同窓会顧問 崎濱宏美



今日は7月10日、水浦さんがあわただしい感じで帰天されてからちょうど一月が経ちました。「英彦の泉」の原稿を忘れていて今日催促され、今回は、水浦さん宛に手紙形式で書いてみようと思いましたが、どんな手紙になるか心配ですが、水浦さんの思い出など少し書かせていただきます。

水浦さんが今どうしておられるのか考えてみました。11人の兄弟の末っ子として生まれた水浦さんは、若くして亡くなっていたお父さんの腕の中に抱かれた体験が少ししかな

かったようですね。きっと天国の門に入った途端、お父さんから抱きしめられ、大好きだったお母さんや兄弟たちに満面の笑顔で迎えられているだろうと思っています。そして、彼らから受け継ぎしつかり守り通した信仰のありがたさを嘯みしめている頃だろうとも思っています。

私は、聖母の騎士学園勤務の任命を受けた時、少子化が進んでいくことは分かっていましたので、校名の「騎士」を生徒指導の中心に置き、徹底したカトリック的教育を深めて、学校の活性化を進めていきたいと考えていま



故 水浦久之氏

した。そのためには、学園の特色を外部の方々に理解していただくため、毎年「全校生徒で関わる宗教劇」を実施したいという計画を持っていました。全校生徒で関わることで、小規模校の利点も生かせると考えられたからです。脚本はカトリック作家の遠藤周作氏にお願いするつもりでした。彼が「沈黙」を発表した後、神学生だった私たちに「家に遊びに来なさい。何でも腹を割って話そうじゃないか」と、語りかけていただいたことがあったからです。

ところが、長崎に水浦久之というすごい劇作家がいることがわかりました。すでに何回か上演されていた「オラシヨの口」（彼の遺作『愛の騎士道』（聖母文庫）に収録）のシナリオを読ませていただいたとき「遠藤周作以上の作家がいる」と納得し、しかも卒業生であることから、この方以外に考えられないようになって、都合3回もシナリオを書いていただくことになりました。

した。学園の定期公演の第一回目は、ちょうど50周年の節目に当たっていました。長崎では被爆50年でもあり、永井先生しかいないということで「平和の鐘」というタイトルで書き下ろしていただきました。

水浦さんは、戦後永井先生に理科の授業を受けていたことがあるだけでなく、聖母の騎士誌のための原稿を、如己堂に赴いて病床に伏せている先生から口述筆記した体験もあり、何か摂理的なものを感じました。上演当日は先生の愛娘カヤノさんの挨拶もいただき、カヤノ役を演じた生徒から花束の贈呈もあり、観客が非常に喜んでくださったことも昨日のことのように覚えていきます。

元気だった頃を少し辿ると、劇以外にもいろいろ参考になるお話やアドバイスもいただきました。水浦さんの的確な物の見方や、状況判断等にはかなり信頼できると感じておりました。これはお世辞ではありません。社会人としてだけでなく、カトリック信者としてもノーマルで確かな考え方に、私は舌を巻いていたものでした。残された作品の中にもはっきり見ることできます。

現在、南米のアルゼンチンで活躍している、神言修道会の北島神父さまの、寮のチャペルでの初ミサの折にもそれを感じました。彼は本校卒業後中

京大時代、どういう訳か南山大学の学生のための寮に入ることができ、そこで神言修道会の神父さま方と親しくなり、父親の猛烈な反対を押し切ってカトリックの洗礼を受けただけでなく、神言修道会員となって司祭を目指したのです。

名古屋市南山教会で行われた司祭叙階式には、ご両親だけでなく親戚の方も一人も参加しませんでした。本人の希望で初ミサを母校のチャペルで行うことになり、同窓生たちはその場にご両親に参加していただこうと計画し、実家を訪問の上申し入れました。しかし、「絶対に行かない」と強く断られてしまいました。途方に暮れた仲間たちは、そのことを水浦さんに伝えると「一回ぐらいで引き下がる馬鹿がいるか、いい返事をもらうまで何回でも行って来い！」と、大先輩として人の心に響くやり方を教えてくれたのです。

そのうち「ミサには参加しないが、宴会には顔を出してもいい」と返事をいただき、私も共同司式で、予定通りミサを始めましたが、なんと3階のチャペルにはご両親の姿があったのです。ご両親が並んで新司祭の祝福を受けた時、お父さんの眼には涙が溢れ、トポトと零れ落ちました。お祝いの席で「私には5人の子どもがいます。結婚式など何回もありましたが、こんなに感動したことはかつてありませんで

した。まして涙を流すなんて一度もありませんでした。皆さんありがとうございませう」と、お札を言っていた姿は忘れられません。水浦さんの適切な、そして人の心の動きをしっかりと読んだ助言が感動を呼ぶ結果を生んだのです。「さすが水浦さんだ！」と、感心したものです。

天国では、神さまのさまざまな被造物への愛の姿とその表現のすごさに、圧倒され続けることと思います。特に人間に対する神さまの思いのすさまじさは、水浦さんの筆を持ってしても描けない世界だろうと考えています。太陽よりも遙かに眩しい神さまには簡単には近づけないでしょうから、マリアさまやヨゼフさま、アシジの聖フランシスコさまそして聖コルベさまにお会いすることがありましたら、私を初め聖母の騎士学園同窓生のために取り次いで下さるようよろしくお願いいたします。何よりも、私たちがカトリックの信仰を強く生き抜くことができ、すように、各自がそれぞれの場で、神さまの心を常に生活に生かすことができますようにお願いしてください。最後に私の保護の聖人、聖ダミアノさまにもよろしくお伝えください。

感謝をこめて！





学園だより

高総体 と高文連 報告

2013
平成25年



平成25年度、長崎高等学校総合体育大会が5月31日(金)から始まりました。2014年に長崎国体が開催されるため、諫早の陸上競技場が新しくなりました。その新しい陸上競技場で高総体の開会式が行われました。本校から副校長先生を団長として22名の生徒が堂々と行進しました。6月1日(土)から各競技が開始され、バドミントン部は長崎市で、剣道部は諫早市で、弓道の試合(2年生久留章仁君)は大村市で行われました。それぞれの結果については、各顧問の先生から報告していただきました。

また、バグパイプ部は5月26日(日)に長崎ブリックホールで長崎県総合文化祭連合音楽会に出場し見事な演奏を披露しました。合わせて、囲碁部の「37回全国高校囲碁選手権長崎県大会」が青雲高等学校で行われ、本校からも4年ぶりに1名参加しました。

【剣道部】

剣道部顧問 廣島誠一郎

6月1日(土)に諫早市小野体育館にて高総体剣道競技が行われ、本校からは個人戦に3年生2名が参加しました。試合結果をご報告します。

3年生の藤龍平君は、島原商業の選手を破って勝ち上がった上五島高校の永田直人選手と対戦しました。永田選手は上段の構えをとる選手でしたが、藤君は開始直後から堂々とした構えと攻めを見せ、相手も攻めあぐねていました。藤君は面や突きを中心に打ち、相手は上段から早い面や小手を打っていました。藤君は延長戦になりました。そして、藤君が一瞬下がったところを攻め込まれ、小手を打たれて敗退しました。



3年の永松海生君は川棚高校の池富将大選手と対戦しました。永松君は高校から剣道を始め、練習はたいへん真面目で、顧問の厳しい指導にも耐えてこれまで頑張ってきました。しかし技術や経験の差は歴然で、相手に小手と面の2本を取られ敗退しました。

剣道部は、中学から剣道を始めた藤君と初心者永松君の2名で活動してきました。そして、お互い助け合いながら、厳しい稽古を頑張ってきました。また、指導を受けるために、積極的に税関での稽古会にも参加していました。試合結果は残念でしたが、これまでの活動を通して、彼らは自信を身につけたことと思います。

同窓会の皆様方からは高総体援助費をいただき、本当にありがとうございました。

【バドミントン部】

バドミントン部顧問 飯田友広



今年度の高総体は、団体戦1回戦で西海学園と対戦し、かなり競り合いましたが、0対3で敗退しました。戦力的には、相手が少々上でしたが、勝負できる相手だっただけに残念でした。

個人戦も全て1回戦敗退でした。ダブルスですが、富浦・酒井組は、中学時代から活躍していた選手に完敗。河野・若杉組は、競りながらも流れをつかむことができず、勝てませんでした。また、シングルスには3名が出場しました。3名は、大会2週間前から取り組んできたショットを効果的に使えず、思うような戦いができていませんでした。

練習を重ねてきて、攻撃型ダブルスや粘り強いシングルスができるようになりまし。しかし、高校からバドミントンを始めた生徒は、試合経験が不足していたと感じました。社会人の大会に出場したり、練習試合も実施しましたが、まだまだ練習不足です。もっと貪欲に練習を重ねさせたいと思います。

なかなか結果が出ませんが、卒業生の練習参加を含め、これからもご支援をよろしく願います。

【囲碁部】

囲碁部顧問 **吉田博愛**

平成25年5月6日の祭日、「第37回全国高校囲碁選手権長崎県大会」が青雲高等学校にて開催され、本校からは1年生の小岱聖君（5段格）が出席し、見事第3位に入賞しました。これにより「第37回全国高等学校総合文化祭長崎大会（長崎しおかせ総文祭）」における「団体戦」への出場権を獲得しました。本校では初めての快挙です。全国大会での活躍と健闘を祈ります。

同窓会の皆様からいろいろのご支援をいただき、ありがとうございました。今後ともよろしく願います。

【バグパイプ部】

バグパイプ部顧問 **熊川武俊**



5月26日（日）、バグパイプ部は、長崎県高校総合文化祭、「器楽・管弦楽部門」に参加しました。会場は、2千人収容の長崎では一番立派なコンサートホール、「ブリックホール」。

オープニング演奏、それから本番演奏で、バグパイプの魅力をつぶりと？伝えることが出来たかと思えます。これまで、バグパイプ部はモットーである「バグパイプを長崎の文化の一つにしたい！」の実現のために、少人数ながらも熱心に練習を重ねて来まし。そして、最近その活動が少しずつ認め

られるようになり、この1年で、西日本新聞、読売新聞、NIB長崎国際放送などで特集が組まれ、紙面と映像で紹介されています。フェイスブックの「聖母の騎士学園同窓会」でも、紹介していますので、ご覧下さい。

8月3、4日には、全国高校総合文化祭「長崎県大会」でも演奏します。今は、それに向けて特訓中です。現在、部員はわずか3名ですが、聖母の騎士の心意気を発揮し、「聖母の騎士高校バグパイプ部ここにあり！」をアピールしたいと思っています。

**同窓会による
奨学生紹介**

嶋崎康介君

同窓会の奨学金制度は、経済的理由で修学が困難な生徒を援助する制度で、同窓会の主な活動の一つになっていきます。平成24年度の奨学生として3年生の嶋崎康介君が選ばれました。嶋崎君は生活面においても学習面においても模範的な生徒です。成績も優秀で、長崎大学の工学部に見事合格しました。同窓会の奨学金は学校の応接室で直接、保護者の方に渡しました。次の記事は嶋崎君のお礼の言葉です。

私は、母の母国であるフィリピンに小学4年生のときに行き、中学3年生の2学期に帰国子女として父親の出身地である長崎に戻ってきました。日本に戻ってきたときは高校受験を間近に控え、受験勉強に戸惑いながらも何とか聖母の騎士高校に合格することができました。

私の家族は両親と兄弟5人の7人家族で私が長男です。父はシルバー人材で一生懸命に働き家族を支えていました。高校に入学したとき、同窓会の奨学金に申込み、奨学生として認められ1年生と3年生の2年間、奨学金をいただきました。両親に経済的な負担をかけずに、勉強に

集中することができました。お陰で第一希望の長崎大学工学部に合格することができました。

同窓会の皆様には心から感謝しています。大学生になっても勉学に一生懸命に励みたいと思っています。ご支援をいただき、本当にありがとうございました。



ナイツフェスティバルの同窓会による餅つき

平成24年度



十年一昔と言いますが、同窓会が学園祭で餅つきを始めてから10年になります。平成14年に学園祭の景気付けにと始め、翌年の平成15年度から同窓会が餅つきを行うことになりました。平成18年度から学園祭が隔年度実施になったため、毎年ではありませんが、学園祭が開催される年は必ず餅つきを実施してきました。

長崎地区の理事を中心に始めたメンバーも10年前とほとんど変わっていません。ということ、全員が等しく平等に10歳年取ったことになりました。歳のせいも、餅をつく姿勢もやや前かがみになり、持久力も衰えずに息が上がってしまいます。達者なのは口ばかりで、指示する者がやたらと増え、動く者が少なくなりしました。先輩を敬い、てきぱきと働く若手を一刻も早く育てるのが肝要でないかと思えます。

ともあれ、今年も台風16号の影響で開



で一緒に販売しました。そのお陰もあり、餅つきとあわせて4万6千円の売り上げがありました。これまでの最高の売り上げだと思えます。経費を差し引いた3万9千円が生徒会に寄付されました。生徒会活動の中で生徒達に還元していただければ幸いです。

協力していただいた会員の皆様、奥様方、大変ご苦労様までした。また、次回も頑張りましょう！

催が危ぶまれましたが、何とか無事に実施することができました。会員の奥様方や子供らにも手伝ってもらい、笑い声の絶えない和気あいあいの霧囲気の中、楽しく餅つきをすることができました。今年は、奄美支部から貝のアクセサリーと大島紬の小物入れが送られてきたので、餅の横

生徒募集 母校で、ご子息を学ばせてみませんか。

■一般生

- ★1学年1クラスの少人数教育。
- ★学力が高い生徒のために進学コースを設置。実力をアップして上級学校への進学を目指します。
- 1 年生:「センター試験対策コース」
- 2・3年生:「国公立大学進学コース」

■神学生 (聖コルベ志願院 ☎095-828-0541)

- ★コンベンツアル聖フランシスコ会の神父を目指します。祈りに始まり祈りに終わる生活で信仰を深め、キリスト教指導者になるための知識・教養を身につけます。
- ★高校卒業後は一般の大学で神学以外の専門知識を身につけた後、上智大学神学部へ編入して司祭を目指します。このため高い教養を身につけることが要求されます。
- ★神学生の授業料・生活費は修道会より支給されます。

■校内特待生制度

- ★成績優秀な生徒には特待生制度により奨励金を支給しています。

オープンスクールを開催します。
10月12日 土曜日
お気軽にご来校ください。

※学校見学会は以下の日程で行います。
11月2日、11月16日、11月30日、12月7日
(全て土曜日です)

寮完備

県内外を問わず広く一般生徒のために寮を完備しています。規則正しい生活の中で、秩序と和を学びます。毎日の食事は、専門の業者による栄養管理のもとで提供されます。

聖母の騎士高等学校

長崎市本河内2-2-2 ☎095-823-4523
ホームページ <http://www.seibonokishi-2008.jp/>

各地区からの お便り



「関東支部便り」

ゴルフの心

関東同窓会会長
昭和41年卒業

池田健二

「公明正大」

現代社会はモラルハザードの時代である。政治倫理や企業倫理といった職業倫理、そして普通の人がかつては持っていたはずの倫理観念などは一体どこに消えてしまったのだろうか。

為政者、警察官、先生といった普段から信頼されている職業の人達の不祥事が跡を絶たない。彼等の謝罪会見の言葉は皆一様に「不徳の致すところ」であった。徳を充分に備えていなかった事を詫びているのである。

丁度、コンクラーベの最中であったか、カトリック教会の不祥事が大きく報じられた。バチカンや聖職者の醜聞は多くの人々を失望させ、我々の近未来を暗くしている。最も信頼され敬われているはずの人達までもが……。そ

ろそろ世の終わりに備え、方舟バ用意セントイカンヤロカ。

若気の至りで？つい「義憤に燃え前置きが長くなってしまったが、フェアが真髓のスポーツに話題を移したいと思う。

スポーツの世界はルールに則り、さらにその上モラルも要求される言わば理想の世界であったが、近年、ジャーナリズム、コマーシャルリズム、ナショナルリズム、そして経済効果優先策、等と結びついたところにスポーツの悲劇が始まった。

オリンピック憲章などが薄れた今日、スポーツの原点をもう一度考え直す事が必要ではないだろうか。そこで、エチケット、マナーに厳しく「正々堂々」を絵に描いたようなスポーツ、ゴルフを取り上げて眺めて見たいと思う。ゴルフは至ってシンプルなゲームだ。自分の小さな球ツッコを自分の棒キレで打ち飛ばして穴に入れる。打数の少なさを競う。ただそれだけの事だが、他のスポーツとは異なる大きな特徴がある。それは、30万坪にも及ぶ広大な競技場で審判員不在で行われる事だ。

「神との戯れ」

北海に面したスコットランドの海岸は、ゆるやかな起伏を持つ砂丘と、天然の常緑芝に恵まれており「神の造ったコース」と呼ばれている。即ち、

オールドコースの土台にあったものは、人間とあるがままの自然(神)との交流であり、自然によってもたらされた運不運は、自分に課せられた試練として受け止めるというルールの大原則『PLAY THE BALL AS IT LIES』(ボールはあるがままでプレーせよ)を打ち立てたのである。

ゴルフは審判という仕切り役がない。よってプレーヤー自信が自分のプレーの審判を勤めるのであるから、プレーの技術を磨くと同様に厳正なる審判者たるべくルールに熟達し、判断力とモラルの向上を計らなければならぬ。広い緑の自然の中で、自分の一挙手一投足がルールに則しているかどうかきちんと判定し、それを率直に申告する。そして「疑わしきは自ら罰する」高適な人格が要求されるのである。例えば、ルールでは鳥の巣などは動かさない障害物として無罰でドロップを許している。もし球が杉の若木の所に止まったらどうするか。杉の木は障害物ではないのでドロップは許されない。だがスイングすれば若木は折れる、その場面でどう処置するか人間性が表れる。

若木を吹っ飛ばしてもルール違反ではないから非難はされない。だがそこでアンプレアブルを宣言して1打を払い、若木を避けてスウィングしたらその人の人間性は誉められるだろう。全

米オープンなら1打が何万ドルにも相当しようが、素人の1打にはそれ程の意味が無い。

ゴルフに関する現存する最古の記述は、1457年スコットランド王国の議会(ジェームズ二世)から出された「ゴルフ禁止令」の中に見られる。イングランドと長年争っていたスコットランドは、兵士が弓の稽古を怠ってゴルフに興じることを戒めたのである。

1744年には、スコットランドのエディンバラで行なわれたマッチプレー選手権で、成文化された最古のルールが制定された。

ここで注目したいのは、300年もの間、あるいはそれ以上の間、ゴルフはルールブック無しでゲームが行なわれていたという事実である。

「ゴルフアー性善の不文律」

しかしながらこの当時から仲間同士の暗黙のルールがあり『GOLFERS ARE HONEST』(ゴルフアーは不正をしない。)というのがゲーム成立必須条件であり不文律であった。

テレビやギャラリー環視の中でプレーする特定の競技を除けば、ゴルフ規則は悪意のプレーヤーに対してほとんど無防備である。プレーヤーがその気になって不正を企めばこれを防ぐ手だては無い。従って「この中にズルイ

聖母の騎士学園同窓会関東支部

同窓会総会開催しました

ご報告

実施日:6月29日

場所:カトリック赤羽教会
〒155-0045 東京都北区赤羽2-1-12

スケジュール

- 11:00 ~ 感謝のミサ
(赤羽教会、司式:藤沢神父様)
- 12:00 ~ 総会
(赤羽教会信徒会館1階ホール)
- 12:45 ~ 懇親会
(赤羽教会信徒会館1階ホール)
- 15:00 ~ 閉会解散

会費:4,000円
(聖職者の方は2,000円)



※ご参加頂いた方々お疲れ様でした。次回からも、いつも参加いただいている方はもちろん、初めての方や若い方の参加を心から、お待ちしております。

■赤羽教会での記念撮影



故水浦久之氏 遺作

- 神父発見 価格500円(税別)
- 新・神父発見 価格500円(税別)
- 漂泊の果て 価格600円(税別)
- 金鍔次兵衛物語 価格500円(税別)
- 愛の騎士道 価格600円(税別)



聖母文庫

全国の書店または、聖母の騎士社でお求め頂けます。詳しくは、[聖母の騎士社](#) [検索](#)

「ヤツが何人か居るはずだ」と疑ったら、初めから競技は成立しない。そこで規則は、ゴルフ競技でプレーする人は全て「私は不正をしません」と(神に)誓った人である。と見なすのだ。従ってゴルフのプレーヤーは、その本性の如何を問わず、全て紳士ならびに淑女として扱われるのである。エディンバラ紳士ゴルフフェーズによって創られたゴルフ規則は、東洋思想、儒教的道徳観によらず、キリスト教的世界観の中で育った人々により創られたものである。即ち、相手に見られ

ていなければ、ボールを有利に動かすなどの人間の繰り返しの罪は、天にまします神に明々白々に見通されているのである。フェアプレースポーツの原点としてゴルフを位置づけたものと思われる。中世から英国の野原でのんびりと楽しまれていたゴルフは米国で育ち、やがて今日の様な世界的な大衆スポーツになった。日本では明治34年、神戸在住、英国人茶商によって六甲山上にコースが造られスタートした。

【おわりに】

かつてはゴルフに対するイメージはあまり良いものではなく一種の「バリア」のようなものがあつた。平たく言えば一部のブルジョアや、有閑紳士の娯楽の様に思われていたが、今では幅広い層に受け入れられている。現在、私のスクールでも、小6の坊やから84歳のオバアチャマまで白球を打って楽しんでる。

昭和42年春、私は長年お世話になつた、聖ボナベンツラ神学院(東京・東村山)を後にした。そしてその半年後、所属先の鹿沼カントリークラブの芝草の上でただひたすら球を打っていた。あれから47年、今日に至るまでゴルフを職業にしている。人が見ていようが見ていまいが、そして損得を抜きにしてきちんとルール、マナーを守っていく紳士的なゴルフをする人々が、道徳教育の生きた師表として、あらゆる分野で活躍して頂きたいと念ずるものである。2016年、オリンピック、リオデジャネイロ大会で、ゴルフは正式種目になった。

●奄美支部総会



平成24年6月3日 日 午後1時30分～
マリア教会、ゼローム館にて。

教会の聖堂にて、聖体賛美式を行い、マリア教会、ゼローム館で支部総会を行う。その後総会の議事に入る。前年度の事業報告、決算報告、監査報告、提案のとおり承認される。今年度の事業計画、予算案について、審議し特別異議なく了承した。



2012 nendo
奄美支部の
活動この1年
AMAMI SHIBU

●物故者

各葬儀ミサでご冥福をお祈りしました。

平成24年10月 故 近藤 トツ工様 近藤 芳弥さんのお母様
平成24年12月 故 山田 ツタ様 山田 博信・明さんのお母様
平成25年 4月 故 近藤 芳樹様 近藤 芳弥さんのお父様



●奄美支部役員名簿

任期:平成27年3月31日まで

会 長	近藤 芳弥
副 会 長	配山 尚幸
	大茂 卓郎
	押川 尚樹
	山田 光人
会 計	山田 明
事 務 局	田下三佐男
	押川 文隆
会 計 監 査	白石 信録
	松永 正男 神父
顧 問	久保 芳一 神父
	榊 修 神父
	田下 幸次
	久保 聖一

●聖コルベ記念ミサ

平成24年8月14日 日
聖コルベ司祭殉教者の列聖30周年を記念して
ミサの中で特別に祈りました。



ミサ後のお茶会？
この料理では宴会でしょう！ 婦人方に大感謝！



家族も全員参加して、交流を深める
奄美支部のスタイルは好評

●草刈の奉仕作業 (赤尾木)

平成24年6月3日 日
希望の星学園で活躍



猛暑の中でも、長靴と
長袖の完全武装で、
大量の雑草と戦う騎士。

普段、ほとんど人手が
入らない所を集中的
に攻めていきます！



●一時帰国した倫太郎と嫁さん

平成24年10月12日 金
国際結婚した倫太郎が嫁さん連れて来たド~!



ドイツ籍の妻アンケさんに、白いサンゴの手編みの口ザリオが結婚の記念としてプレゼントされました。見よ！この笑顔。

歓迎会の席でも
何故か盛り上がり
皆いつもと違って
口数が少ないと
思いが伝わらない



言葉の壁を破れなかったのは、聖母の騎士学園のせいではありません。



倫太郎の同級生、
久保徹と松原和彦
子分の田下真人
手話で通じたぜ！
(左から、真人、徹、
倫太郎、アンケ、和彦)

●命日祈念ミサ

平成25年3月19日 火 ゼローム神父さま帰天10周忌ミサ



奄美にいるコンベンツアル会員司祭4名
と助祭によって捧げられた祈念ミサ



平成24年12月8日 去年、帰天されたアダムさんの1周忌ミサ

各界の代表者のなかに
聖母の騎士から
大茂卓郎が参加して
共同祈願を述べた。



ミサ後の懇親会には、
島中の教会から
なつかしい信者が
集まった。

在世フランシスコ会と聖母の騎士奄美支部が共同してミサ部分を企画した



ミサ曲を昔のラテン語で歌い、参列した信者さんと共に賛美した

「奄美支部便り」 聖母の騎士と私

奄美支部 押川尚樹



「英彦の泉、支部便り」

今、この原稿を書いている自分に正直驚いている。聖母の騎士が嫌いだったからである。

昨年、長〜い旅が終り奄美大島に戻った。36年ぶりに不安の中、故郷での新しい生活を始めた。そう37年前の4月、12歳の私は奄美を離れ長崎へ向け旅立った。

幼児洗礼を受け教会に通い、小学生になると侍者として、祭壇・司祭の側でミサに与かっていた私は、迷うことなく当たり前のように、司祭を目指した。奄美で生まれ、教会で育った少年にはそう珍しいことでもないだろう。ただ、私の場合本当に司祭を目指したのだろうか……

正直、ただの憧れだったようにも思える。香部屋の匂いが好きだった。聖心教会の祭壇が好きだった。コンベンツアルのグレーの修道服が格好良く、それを着ている司祭に憧れた。(聖心教会は教区司祭だったが) なにしる教会が大好きだった。教会の姿、形、人を含めた空間が美しい場所のように思っていた。

そのままの心で聖母の騎士での生活が始まった。教会大好き人間の私には、最高の環境。そのまま6年間、これまでの生活が続くものだと思っていたのだが。2学期が始まった早々から、とても苦しい辛いことが続いた寮生活だった。誰にも話せなかった。だから、笑って過ごしていた。

笑えなくなった。人間不信。自己不信。自分の中の教会が美しい場所ではなくなり、壊れていく自分。2年の1学期終了時点で、小神学生生活の終り。父の仕事の関係で奄美ではなく鹿児島での生活が始まった。憧れも目標も何もなく、壊れ続ける自分。教会からは遠ざかり、自分の中から消し去ろうと。生活は荒れ、高校を中退。単車でうるさく走り回る暴走族。いつも危険な場所に身を置き、ぼろ雑巾のようになるまで殴られたりも。目標も見つけられず、何をしても心が晴れず。職場も転々。こんな日々を随分長く過ごしたように思う。やれやれ、このままでは……

聖母の騎士退学から4年、一度もお祈りをしたことがなかった。17の終り頃、東京へ出た。長崎にさへ行かなければ……の思いを長く引きずったまま。

……

こして、手を引いて教会に通い始めた。自分もそうしてもらっていたように。

驚くことに主の祈りを忘れていた。(ある意味、消し去る事には成功していたようだ)

「積極的にイベントへも参加した」

間もなく教会学校のサポーター(リーダー)もやるようになり、生活の中に教会が戻ってきた。その後も紆余曲折あったが、神父さまや信徒の皆さんに支えられ、中でも教会学校の子供たちや若いリーダー達は、私の心を温かくしてくれる支えになった。

しかし勝手なもので、教会との関わりが深くなるにつれ、教会が祈りの場所でなくなっていくジレンマ。内向きな教会への嫌気。

自分なりに教会との距離感を計りながら、外へと向かった。

地域に密着し町会理事、お祭り・盆踊り・餅つきなどの行事も子供係り。教会行事よりも消防団活動。精神障害者との出会いをきっかけに障害者との交流。他宗教の方々との交流、お互いの教会(寺院、モスク、集会所等)訪問。イベントに参加して相互理解。

日曜日。たまには教会へ戻り、「あー!自分はやっぱり信者なんだ」と。そしてまた一週間。こんな日常の繰り返しが続く。決して熱心な信者で

はないが、以前のように遠ざかることはない。

それでは。と、中退以来26年振りに鬼門の長崎聖母の騎士へ。蛍茶屋の変わりように驚き本河内へ。あの坂を上り聖母の騎士。随分変わったなあ。あの木造の修道院が無くなっていったのは残念だった。

問題の寮へ立ち入る事はしなかったし、その必要もなかった。外から聖堂の十字架を見上げるだけで十分だった。特別な感情も湧かず。解っていたことだったけど、わだかまりも無くなっていた。少し懐かしかった。

「そして10年」

奄美へ戻ってはみたのだが。仕事がない。時々日雇いで労働はするものの。厳しい現実。そんな中、37年前一緒に長崎を目指した友、久留幹夫君を訪ねた。35年振りの再会。彼もまた、いろいろあったのであろう。今は教会を離れているが、元気に堅実に頑張っている。今は私の良き相談相手でもある。自分から求め動くと繋がって行くのか。彼を求めた以降、聖母の騎士OBとの出会いが続く。

教会の信者さんの結婚式。周りの席は聖母の騎士OBたち(初対面の方々)。はめられたか?(笑)3ヶ月お世話になった職場には1つ違いの先輩後輩が在職。先輩との交流が始ま

「転機は娘の洗礼」

教会から離れていた私は、娘を抱っ

る。2月には5人でミニ同窓会。昔話に花が咲く。

【定職を求めハローワークへ】

ある求人に見が留まり応募。面接を受けて驚く。経営者が聖母の騎士OB。第16号「活躍するOBたち」で掲載された恵川氏である。今、氏の経営する福祉施設で毎日怒鳴られながらも、何とか頑張っている。

同窓会から連絡が入るようになり、幾つかの事業に参加。25年度総会に出席し、気がつけば今年度の副会長の一入に。そして今この原稿。やれやれ、もう逃れられない。聖母の騎士。

聖母の騎士と私の関りは
第1章、長崎聖母の騎士（寮生活）
第2章、わだかまりの中の聖母の騎士
第3章、無になった聖母の騎士（わだかまりもとれ）
こんな感じであろうか。

これで終りのつもりでいた。旅のよなものごうやく終わったなあ、と。でも、また始まってしまいました。今度はどんな聖母の騎士か。楽しんで行こうと思えます。

最後に、あまりに長く離れていてお礼を伝える事ができませんでした。「阿野先生、高原先生。お世話になり、ありがとうございます。久しぶりに戻ってきました。また、お世話になります。よろしくお願ひします。」

〜奄美支部便り〜

島が良い良い、島が良い、僕は将来島に戻り、島に住む……

カトリック古田町教会
主任司祭(奄美支部顧問) 松永正男



聖母の騎士学園を巣立って行く奄美大島出身の卒業生が卒業文集に書いていた作文の一部です。

私が奄美大島の事を知ったのは、聖母の騎士学園（小神学校）に入る前の事でした。ひとりのおばさんが大きな荷物を背負って我が家を訪れてきました。全然聞いたことのない言葉でしゃべり、荷物を拵げ始めたのです。それが大島紬であったことも知らなかったのですが。

その後、数年して聖母の騎士学園に入学することになりましたが、そこには大勢の奄美大島からの生徒がいて、仲間同士が話し合っているのを耳にした時、あの紬の反物売りのおばさんの話していたのと似ているな、と思って聞いていたものでした。

当然、我々のクラスにも奄美からの生徒は数名いましたが、高校を卒業して修練期へと進んだのは森井実、泉純孝、三浦三男の3名だったように思います。修練の1年のあい

だでコースがそれぞれに変わってしまいました。二人が修道士の道、ひとり司祭への道を歩くことになってしまったのです。

そして司祭に叙階されて7年後、奄美大島での宣教司牧活動の職務任命を受け笠利地区の教会を担当することになり、ラファエルさん（森井実修道士）と再会し、教会の宣教活動その他の事で行動を共にすることになり、彼の働きを目にして感動してしまつた事があります。

「我が道は、これにあらずと去る友の……」と詩に詠んだ仲間がいました。志を半ばにして故郷に戻ってきた仲間たち、特に後輩たちに対しての配慮、活動を彼はやって来ていたので。現在の聖母の騎士学園同窓会の前身にも該当すると思われる「セミナー会」との名称で立ち上げられたこの会の仲間が学園生活時代に培われた奉仕の精神と祈りの精神で、シスター方が経営する施設の奉仕作業等やその他の事をやって来ていました。

30年以上も前、あの頃若かったメンバーはバレーボールチームや早朝野球チームまで結成していて、練習に集まったり、試合があったりで見学や応援に出かけたものですがそんな時、陰の力、ある時は表の力として仲間を支えてくれていたのは彼、ラファエル森井修道士さんでした。そしてほとんど

の仲間からも慕われていました。

若くして天国へ召されたラファエル森井実修道士さん、彼は今、名瀬にある私たちフランススコ会の共同納骨堂に眠っています。彼が残してくれた聖母の騎士の精神は後輩たちにしつかりと引き継がれ現在も活動が続けられているのです。学園創立者である聖フランススコの祝日、聖マキシミアノ・コルベの祝日、島の宣教者であったジェローム神父様の命日等は共に集まり祈りを捧げて、その後に献杯。

〜奄美支部便り〜
がんばっています

奄美支部・昭和22年生 大茂卓郎



皆さんおげんきですか？私、大茂卓郎は65才、初老という歳になりました。平々凡々とした生き方をつづつても興味がわかないので少し変わったことを中心に書きたいと思えます。上智大学2年のころに 大学紛争が始まり、学校内はヘルメットをかぶつ

た学生がウロウロしておりました。私は貧乏学生で背広がありません。学生服のまま通学していました。

ある時講堂で大衆団交がはじまりました。学長のつるしあげです。その時、その貧乏学生が叫んだんです。「学長に話をさせろ、とり囲んでいる君たちも学長から離れなさい」と。数名のメンバーが貧乏学生をにらみ立ちあがりましたが学生服をつけているので体育会系の学生とまちがえたのかその後静かになりました。

上智大学を中退して島に帰り、1年間新聞記者生活をしました。ある時、青年会で障害児施設の慰問に行き、ダウン症の子供達のやさしい眼に何とも言えない感じをうけました。すぐに施設の親戚のシスターにTELをして学園につとめたいとお願いしました。私の気持の中とうわべばかりの記事を書くのに飽きあきしてしまいました。本当の子供達の心を知るべきだと思いました。それから32年、子供たちと一緒に生活しすばらしさを体得し、とりこになつてしまいました。一度もやめたいと考えたことがなかった。これは神のはからいだらうと考えます。

退職して、静かな生活が送れると思つていましたが、ある日、町長が我が家に朝早くからこれ毎日お願います。1週間ぐらいたったところ、私は町長に語りました。「西郷資料館

をつくるべきだ。龍郷の観光は西郷を中心に組み立てるべきだ」と、えらそうな事を話し、町議会の選挙に出馬いたしました。「地もなし、名もなし、財もなし」の三ない選挙です。あるのは信者とのふれあいのみで最下位で当選しました。ところが私は普通の町議とはちがいます。言いたいことをズバズバと言います。町長の言い方「あなたは与党のくせに野党のような質問ばかりする」。

田舎の町長の考え方の本音です。なまいきにも最下位当選の男が「私は町民党です」と言いきりました。4年間言いたい放題。とうとう昨年の選挙で落とされてしまいました。でも町長が一番恐かった男でもありません。

今、私は月2回の西郷塾に参加し、西郷翁史跡の案内役を行つております。西郷さんの評価はいろいろありますが、私が一番西郷さんに魅かれとりこになつているのは「無私無欲」の精神だと思ひます。

又、皆さん方もやつておられることかと思ひますが、カトリック瀬留小教区(7つの教会)の副信徒会長と壮年団長を拝命し聖母の騎士でつちかつた汗と力をはき出しております。年齢には勝てません。病気のデパートです。前立腺ガンの徴候があるということ。検査入院したり、病氣と縁の切れない人生です。

私のクラスの状況をお知らせいたします。

私のクラスは17名でした。松田清四郎、久保芳一、両人が神父になり、池田健二はゴルフの指導員、徳永義雄は住宅メーカー社長、磯部浪男は洋服販売社長、赤尾輝幸は理髪店組合長、初田徳幸は三菱重工職員、息子は東大卒です。滝下孝男は電気店社長、独身。浅田和人、安田誠は退職、泉治彦、山下純毅、前田君、谷尾君、木村君音信不通です。以上。

セミナー会の総会(聖母の騎士同窓会奄美支部)の席では是非とも奄美で全国同窓会ができるように呼びかけて欲しいとの提案がありました。実現できるようにになると田下三佐男事務局長が中心になってがんばると思ひます。

奄美支部便り

繋がり

奄美支部事務局 田下三佐男



50年以上前の小学生の頃、夕食時に晩酌をしながら、祖父がほとんど毎日のように繰り返していた。

「ワン(私)が7歳の時、村に教会の神父さんがやって来た。そこで村人に混じって洗礼を授かることになった。

それ以来、いろんな宗教を見てきたが、このカトリックの信仰だけは決して間違つてはいない！」

結成から8年になる奄美支部では、例年命日記念ミサを企画し、先人たちの偉業に感謝している。特に今年、聖コルベ列聖30周年の記念の年を迎えた。

英彦山の敷を切り開いて、修道院、学校が創設され、そこで学んだ多くの者が、生きた聖人と生活したことは決して大昔の話ではない。コルベ神父と生活を共にされ、実物のコルベ神父を見たご健在のフランシスコ修道士にも、3年前に湯江でお会いできた。

奄美を代表する宣教師ゼロム神父の10周年の命日ミサを今年、同窓会奄美支部で企画した。(平日だから、他の教会から30人もミサに来るだろうか?)最近の教会の信者数を見れば、打ち合わせ会議の中でも、こんな意見がでるのは当然と思つた。しかし、ミサが始まって2階に上がり、座席数200席の聖堂内を見て驚いた、170人を軽く越えていた。ラテン語のミサ曲を、集まった信者さんたちも、大きな声で久しぶりに歌つて、偉大な宣教師を派遣して下さった神を賛美し共に感謝の祈りを捧げた。

奄美の中心的な修道士、ラファエルさんも、ゼロム神父と同じ3月に命日を迎える、(オーい、君たちだけ飲

みに行くのか？ボクも連れて行カンば〜！、集まる度に、必ず反省会の最後までトコトン付き合う、セミナー会（同窓会）の育ての親である。とにかく彼は、分け隔てなく後輩の面倒見が抜群であった。

コンベンツアル会修道士のホープ、アダムさん（阿野先生）が亡くなったときには、奄美支部でも急遽、葬儀ミサをした。平日の仕事を切り上げ片道1時間もかけてミサに参加したメンバーがいた。同じ島に居ながら、初めて見る顔もあった。いつも繋がっているように、アダムさんが一つに呼び集めて下さったのだろう。

〜イギリス便り〜 イギリスからひと言

奄美支部 勸倫太郎



同窓会の先輩、後輩の皆様、お久しぶりです。6月に入り、やっと暖房器具を使わなくても、家の中で過ごすことが出来る様になりました。英国では、ずっと寒い日が続いて、今年の夏はもうこないのでは、と疑っていました。

最近英国では、イスラム過激派の男性2人により、イギリスの兵士がロンドンの Woolwich で殺害されると

恩師、高原先生の追悼ミサのときにも、同じような繋がりの現象が世代を超えて起きていた。

2000年前、ぶどうの木が芽を出した。その枝の一部をコルベ神父が長崎の地に引いてきた。その後、枝を託された農夫たちは、さらに東京、名古屋、仁川などへと、その枝を引いて行った。もちろん奄美にも、アメリカから同じ枝が、地球を反対廻りするようにして引かれていた。奄美に引かれた枝も、託された農夫たちによって、島の至る所に引き回されて、小さな村にも立派な教会が建ち、枝には実がたわわになっていた。

この事件が5月22日に起こりました。この事件は、日本でも報じられたと思います。その事件後、イスラム教のモスクなどの宗教施設が放火される事件が、数件起きています。

その他にもスコットランドでは、国として独立の可能性が議論されました。その影響で、ウェールズでも国民の独立に関してのアンケートが行われました。しかし、ウェールズでは、スコットランドに比べ、国民は、そこまですべて独立に関しては、賛成の数は少なく、特に議論されることはありませんでした。

スコットランドには、5月の25、26日にバレーボールの試合で、Peta

こうして奄美に引かれた枝によって、多くの司祭、修道士、修道女、司教が誕生することになり、専属農夫として、枝をさらに広める献身的な働きを経て、小さな枝が枝分かれを繰り返して繋がりが広がった。ふり返ると、宣教師に始まり、少しずつ信者が増え、集団的な教会というより大きな幹となって繋がっていた。

聖母の騎士同窓会奄美支部、奄美に引かれた細い枝の一部と言えるかもしれない。宣教師たちの呼びかけに承えて、長崎の地で農夫見習いのチャンスを与えられて、専属農夫を目指した仲間が、島に戻りそれぞれの立場で繋

（パース）という町に行きました。その帰りに、スコットランドの首都エディンバラを少しの時間、観光することが出来ました。エディンバラには、首都のシンボルであるエディンバラ城があり、その壮大さにはとても感銘を受けました。ウェールズにも、多くの城があります。エディンバラ城とは全く比べ物に成りません。エディンバラ城の近くにはウイスキー専門店などがあり、ウイスキーに関して色々知ることが出来ます。スコットランドに観光する機会がありましたら、エディンバラは必見です。

去年の7月から今年の4月まで、非正規の作業療法士として、整形外科の

がっている。多少ぎこちなさはあるが、農夫手伝いと言えるかもしれない。これまでも、そのほとんどが農夫たちと一緒に活動をしてきた。うまくいくことばかりではないが、同窓会が繋がる方向はそれほど間違えてはいないような気がしている。

ぶどうの木から時代を超えて延びてきた永遠の命へと繋がる枝、偉大な先人たちが苦勞して育ててくれた信仰の遺産、日々大切に育て、自らがしっかりと繋がって、きちんと次の世代にも繋げていかなければ……。カトリックの教えだけは、決して間違っていない！

病棟で働くことが出来ました。色々な患者さんと接することがあり、そこで沢山の事を学ぶことが出来、とても充実した10ヶ月を過ごしました。

私の住んでいる北ウェールズでは、ウェールズ語を母語とする人口が、南ウェールズと比べると多く、そのため北ウェールズでは、特に公務員として働くためには、ウェールズ語を使いこなすことがとても重要です。今年の2月から、ウェールズ語の勉強を夜間のコースで始めました。

以前から、ある程度のフレーズは、病院の清掃のアルバイトをしていた時に少し教わっていたので、ウェールズ語の難しさは、なんとなく承知してい

ました。しかし、実際に習ってみると、その発音の難しさ、文法の複雑さなどは、英語とは全く比較出来ないことに気づき驚きました。

ウェールズ語は、イングランドの南西端にあるコーンウォール(Cornwall)州で、喋られていたコーニッシュとよばれる言語や、フランスのブリタニー(Brittany)と呼ばれる地域で使われているブレトン(Breton)という言語に似ているようです。特にフランスのブリタニーの人たちは、3世紀から9世紀にかけ

てコーンウォールから移住して来たと考えられています。そして、北ウェールズと南ウェールズで話されているウェールズ語の違いはかなり大きく、教科書が、北ウェールズ用と南ウェールズ用で分かれているぐらいです。

私自身、出来れば早くウェールズ語を使えられたらと思っています。それは、ウェールズ語を母語とする老人の患者を診察するさいには、英語ではコミュニケーションがうまくいかないケースが多々あったからです。私が、ウェールズに着いてから、も

う10年以上が経ちました。まさか、英語の他にウェールズ語の勉強をするとは全く夢にも思いませんでした。でも、お嫁さんの母語のドイツ語をまだ喋れないのに、ウェールズ語を勉強しているのには少し罪悪感を感じています。

同窓会の皆さんにウェールズの事を少しでも知ってもらえればと、今回ウェールズ語の事を少し書かせて頂きました。英国から、在学生そして同窓会の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

長崎便り 英彦山を仰いで

1985年度卒業
司祭

平孝之

同窓会の皆様、お元気ででしょうか。同級生の皆様、大変ご無沙汰しております。

昨年長崎に戻り、今年4月から、宗教の授業を担当しております。母校で教えるのには、少なからず抵抗を感じていましたが、1学期を終え、学生だった30年前と今とが رفتり来たりすることが幾度となくありました。少ない誌面ですが、当時は振り返りその後のあらましをご報告したいと思えます。

1980年。入学の年。学園の門を

くぐると満開の桜が出迎えてくれました。タクシーが食堂の前で止まると、夕食をとっていた寮生たちが、ガラス越しに新入生の到着を折り重なるようにして覗き込んでいました。右側には、戦後まもなく建てられた木造の修道院が残っていました。その年から神学生は一般寮生たちと住まいを分かち、完成したばかりの修道院の4階に移りました。当時、中高をあわせ

た学生の数は、「ペトロの魚」と同じ153名。同級生は42名。うち小神学生は10名。小神学生は全部で31名。自習室となったプレハブ小屋にいっぱいでした。

思えばあの頃、聖母の騎士が一番華やいだ時期だったのかもしれない。コルベ神父様来日50周年を迎え、現在

の修道院が完成し、記念式典が盛大に行われました。そしてなにより、翌年2月のヨハネ・パウロ二世教皇様の来園は、教皇様の手の感触とともに一生忘れられない体験となりました。4月には、マザーテレサも訪れました。そもそも聖母の騎士へ入学した一番の動機は、もっと広い世界を見てみたかったからでした。故郷を出ることはその第一歩であり、教皇様、マザーテレサの来園はそれに拍車をかけました。

1995年、故郷の奄美大島で司祭に叙階され、兵庫県の仁川学院で8年間勤務した後2003年、聖フランシスコの故郷イタリア・アシジで6年間を過ごしました。イタリアの文化・芸術に触れ、日本と故郷を外側から眺めることができました。様々な体験を

する中で、あの頃の思いが叶ったことを感じました。2009年に帰国し、故郷の奄美大島で2年間司牧し、また長崎へ。故郷を出ることはこれで2度目。新たな気持ちで生徒たちに向き合いたいと思っています。

つい先日、バチカンから、ヨハネ・パウロ二世教皇が年内に列聖されるとの知らせがありました。2003年にマザーテレサは、列福されており、この学園は、コルベ神父、ヨハネ・パウロ二世、マザーテレサという3人の聖人福者のゆかりの地となりました。ここで学ぶ学生たちが、それを誇りに、広い世界に出て行ってほしいと願っています。



ISATトラベル
 国内外の一般旅行から巡礼まで、個人、団体を問わず旅行企画は何でもご相談下さい。
 過去の実績：ポーランド巡礼、奄美大島教会巡礼、五島列島教会巡礼等
 中西興産株式会社
 トラベル事業部 部長 徳 矢 貢 一 (とくや こういち)
 ☎090-3409-2867
 e-mail : tokuya-k@nkc-j.o.jp

長崎便り 英彦山を仰いで

カトリック本河内教会
主任司祭
柳本繁春



同窓会誌「英彦の泉」の編集長より原稿の依頼を受けた時「なぜ学園に全く在校したくない僕が依頼されるのか？」と疑問を持ちました。しかし、奄美大島で卒園生と係わりを持つていたので全く関係ないのではないので引き受けることにしました。

この4月に本河内教会の主任司祭を拝命して、20数年間働いた鹿児島島の奄美大島から長崎にきました。この聖母の騎士修道院で生活するのは実に58年ぶりです。生まれは山梨県甲斐市で、中央高速双葉インターの近くです。1935年(昭和10年)3月13日です。洗礼は甲府教会で18才の時でした。

山梨県立甲府第一高校の夜間部を卒業後、板橋の戸田橋近くの機械工場で働き、今の志村坂下の教会はありませんでしたので、赤羽教会に通っていました。当時の主任司祭は白浜師でした。工場は三井精機の下請けで「オリエント号」と云うオート三輪車のエンジンの部品を作っていました。ただ工場で働くだけではなく、夜間の大学の工学部に行つて機械の理論を勉強したいと思ひ始めました。昼間は工場で働き

(技術を身につけ)、夜は工学部で機械の理論Wを習つたら、どんなに社会が変わろうが家族を養う位の仕事は出来る、と人生計画を立てて、一生懸命それに向かつてとりくみました。

ある晩、仕事の疲れと、受験勉強の疲れとで小休止のつもりで畳の上に仰向けになって天井を見つめてみると「ふと」「この努力を神様の為にしたら……」「神様に向けたら……」との考えが心をよぎりました。「もう自分は自分の人生計画に向かつて進んでいるから」と心の声を払い除けても、払いのけても消えません。3日間朝から晩まで、仕事でも考えても、考えても結論は出ません。

次の日、仕事が終わつてから用事で教会の近くを通つたので聖体訪問をしようとして中に入り真つ暗な中で「神様、今、このことで僕は悩んでいます。結論が出ません。」と心から祈りました。しばらく祈つてから教会を出ると直ぐ「神学校に行く」と決心がつきました。直ぐその足で司祭館に行きました。主任司祭に「友達が神学校に行きたいと言つていますがどうしたら良いでしょうか?」と尋ねました。「自分が行きたい」とは恥ずかしくて言えませんでしたので「友達」と言つたわけです。

「その友達は誰か?」と何回も聞かれ、最後には「自分です」と答えざる

を得なくなりしました。毎日、「召命を求め祈り」を唱え、3ヵ月待つように言われました。行きたいと思つた時に行かないと3ヵ月もしたら行きたくなくなつてしまふ、と半ば諦めてしまいました。ところが3ヵ月がたち、6ヵ月がたつても望みは消えませんでした。

翌年の3月末頃の或る日曜日、王子の神学校のドナツト院長様が赤羽教会に見えられ、初対面でしたが主任司祭様から紹介されました。「すぐ長崎に行きなさい。修練がはじまります」とのこと。それからあわてて会社を辞める手続き、荷物の準備等々して3月28日に東京を出発しました。

赤羽教会ではJOCの活動をしていましたので、その指導をされていたパウロ川淵勇神学生とガブリエル橋口佐五衛門神学生(当時)が東京駅の夜行列車「雲仙」が出発するプラットフォームまで見送りに来て下さいました。2人だけの見送りで深く印象に今でも残つています。

列車は走り走つて28時間かかり長崎に着きました。小雨の降る中をピクトル神父様がオート三輪で迎えに来て下さいました。応接間でミロハナ神父様と面接し、「修道士になりませんか?」と聞かれましたが「いいえ」と答えました。

それから10名の神学生と3名の修道士と共に修練が始まり、有期誓願、公

式誓願、司祭叙階と進み、来年で叙階金祝の年を迎えるまでになりました。これも皆様がたのお祈りと犠牲のお蔭と感謝しています。

長崎便り

拜啓 水浦久之様

ブラザー・ヨゼフ 橋口達夫

1951年1月30日、私が修道院の門を叩いたのは17歳の冬でした。以来、62年が過ぎました。出迎えたのはドミニコさんと呼ばれていて、2つ年上のあなたでした。修道生活は沈黙が重んじられ、時々顔を合わせても、会釈程度でした。ところがいつの間にかあなたの姿が見えなくなりました。

後日談であなたの人生感をようやく理解しました。「3年間の有期誓願を終え、無期誓願を立てるべきか苦悩の末、院長に指導を仰ぐと、登る道は一つ、あなたが決めなさい。サイは投げ



▲水浦久之氏と彼の著書

平成24年度 決算報告書

摘要	収入	支出	残高等
前年度繰越金	987,761		
会費	346,000		
入会金	126,000		
寄付金	90,000		深堀昭三様他
クラブ援助費		30,000	
学園奨学金		120,000	
会報誌代		231,000	
会報送料代		67,200	
転勤者送別会		25,500	
封筒代		8,980	
会議費		1,570	
餅つき材料代		13,850	木場田会長
合計	1,549,761	498,100	1,051,661

平成25年度 予算計画書

摘要	収入	支出	残高
繰越金	1,051,661		
会費	300,000		
入会金	39,000		
クラブ活動援助費		40,000	
会報送料・通信費		80,000	
会報印刷費		230,000	
会議費等		10,000	
慶弔費		50,000	
学園行事援助費		50,000	
奨学金		60,000	
合計	1,390,661	520,000	870,661

聖母の騎士学園同窓会 (本部役員名簿)

会長	木場田友次		
副会長	永山 一房	顧問	崎濱 宏美
	石田 光勝	書記	小島 正人
事務局	山村 幸雄	会計	赤尾 城司
	熊川 武俊	監査	峰 徹
理事			
里脇 岩男、窄口 富行、松本 修			
松下 昭征、内野 洋平、竹内 松雄			
大石 諭			

られた。私は修道院を後にした。生活のために上京し、神田のクリーニング店で修業の傍ら、東京神田の書店街で色々な本を読破し、本に魅せられたことを話されましたね。修業の後、長崎の上野町で、(有)東京クリーニングを開業。仕事の傍ら長崎文学同人会に籍を置き、神父発見 など五冊の本を世に出したことに多くの方々が畏敬の念を持ったことでしょう。

今から32年前、福者教皇ヨハネ・パウロ二世の来崎の折は、浦上教会の信徒会長として敏腕を振るい、浦上教会を新装改築したことは歴史にその名を留めることでしょう。

私はあなたを兄のように慕い、あなたは私を弟のように可愛がって下さいました。奥様に話せない事柄も、私には心を開き色々な話をなさいました。サラリーマンは60歳になると定年退職だ。俺も60歳で商売を卒業し、好きな文学活動をやるんだと、口癖のように言っていたあなたは、予告通り、60歳で店をたたみました。ところが待っていたかのように、聖母の騎士社の社長、水浦征夫神父様から騎士社を手伝うように声がかかった。相談を受けた私は、修道院の会則には「妻が疑いの起かない年齢に達して承認があれば入会出来る」とある、入会しては冗談を言うの大笑いし、その後10年間、騎士社を手伝った。長崎県内の教会、修道院、幼稚園などの記念誌はほとんどあなたの手によるものです。

聖母の騎士学園「同窓会」の発起人となり、初代会長を引き受け、その後、10数年間会長職を全うされたことも「学園史」にのこることでしょう。クリーニング工場であった自宅の一階を改装「道楽亭」として開放した場

所は、オアシスそのものでした。多くの神父様、同窓生、友人たちがあなたの手料理に元氣付けられ、癒されました。参加者が多い時は私も手伝いに呼ばれ、私にとってもオアシスでした。

去る6月15日、聖フランシスコ病院で会話したのが最後でした。納骨堂も



▲納骨には同窓会生も参加した。

造り、墓標には好きな言葉「空の鳥」を印字した。私の葬儀は簡素によく。その日の真夜中、あなたは旅立たれました。立っ鳥跡を濁さずの譬え通りでした。「ごらんよ。空の鳥」を歌いながら天国での再会を祈ります。合掌



▲水浦久之氏を偲んで

活躍するOBたち

おーびー ◆ミニ特集



レクイエム

昭和55年度卒 米林拓道

その男は、人生の最終章を告げられた。「直腸がんです。ステージ4のb

肝臓に転移しています。5年生存率は16%です。」男は考える「さて俺は50年生きてきて、全てにおいて満足できた人生だろうか？やり残した事はないか？」そして「さて、それでは残された人生をどう生きるか？」

男の仕事は人を癒す仕事である。この仕事は命を削る仕事である、のめり込めば身体を壊すからと師範にいわれたのだった。「くよくよしていても仕方がない、さあ、神の国に行く準備をしよう」男は3年前、20数年離れていた実家に戻ってきたのだった。両親も年をとり長男としての役目を果たそうかと決意のものと帰京だった。

しかし、その両親は80も近いというのに元気で男はガン患者。親孝行するはずが、親不孝者になる苦悩。

しかしこれも神のなせる御業すべてにきつと理由があるはずと男は思う。男にとって今後やるべき事は3つ。

仕事を教えて技術を残す事、できれば、母子家庭で学ぶにも資金が無い人に無料で技術を教え、働く場所を提供する事。そして人生の後片付けをする事。

残された人生があと何年か？男の恩師が3年前にガンで逝かれた。恩師は召される前、病をおして半年をかけて教え子達と再会した。各地の教え子らにその記憶は鮮明に刻まれた。素晴らしい恩師だった。最後はこうあるべきと行動を持って示された。男は回想する。恩師の授業はいつも競争だった。正解できるまで恩師のもとに提出させる。我先にと恩師のもとに行く、気合が入りながら楽しい授業だった。

男は思う、恩師から早く答案を持って来いと言われているようだ、教え子の中で、一番乗りかとも考える。男はただ一つ気になることがある。それは残していく妻の事である。男の波瀾万丈の人生にずっと付き合ってくれた彼女は男と出会い洗礼を受けた。しかし男の病気の為に神から離れてしまった。それが唯一の気がかりである男の葬儀のミサが最後とならないように祈る。

男は昔から殉教ということに意識をおいていた。「自分は今、迫害にあつたら、果たして殉教できるだろうか？」「想像を絶する拷問を受けても信仰を守り通せるだろうか？」

2008年11月24日「ペテロ岐部と187殉教者列福式」の御ミサに出席した時、ヨハネ原主水を知った。キリシタン弾圧で、彼は手の指すべてを切断され、足の腫も切断される。そして潜伏の後、密告により捕らえられ品川で、火に焼かれて殉教するのだが、肉体的苦痛に耐え、信仰を守る勇気が男にあるか？特に潜伏していた場所が浅草のハンセン病者の施設だということから男のすぐそばでの出来事である。約400年前の出来事とはいえ、身近に主水を感じずにはいられない。

主水の苦痛と比べること自体、恐れ多いが、その勇気は男に注がれた。ガンの手術の痛み、再発、転移の辛さなんてと覚えてならない。男は思う。あの時代の拷問には耐えられないかも知れない。しかしこれだけは言える「がんを完治させる条件と信仰を捨てる交換条件」なら、絶対にのまないだろう。間違いない、ガンと共に死を選ぶだろう。

男は思う。「すべては神の御旨のままに、すべてを委ねます」

恩師に会える日が近いかもと少し期待もあつたりして……まだ来るのは早いわいと頬をビンタされたりして……苦し、辛し、の騎士時代、今思えば、誰もが嬉し、懐かしく思えるあの日々、いろいろと思ひ出しながら、やり残すことのないような人生でありたい。

奄美黒糖焼酎 浜千鳥乃詩

2008春期、
全国酒類コンクール
黒糖部門
第1位受賞



本校OBで奄美大島出身の美島良佳さんが取り扱っている上記のお酒を、下記の通り販売します。売り上げの一部は、同窓会に寄付されます。

900ml 12本入: 18,000円 (1本1,500円)
1800ml 6本入: 15,000円 (1本2,500円)
(送料、代金とも着払い)

〒338-0051 さいたま市見沼区東大宮7-55-6
ヒルクレスト401号

ミック産業株式会社 (美島)

☎090-8310-9340 / FAX048-678-5661

事務局より

●平成25年度学年理事

高島一真君。昨年度の生徒会長でした。

●同窓会奨学生

今年度は1名の採用です。5人兄弟のうち、2名が本校に通学しています。生活態度も良好で生徒会活動、学級活動に積極的に参加しています。

●Facebook

「聖母の騎士学園同窓会」のページをFacebookに立ち上げています。学校や、卒業生の情報を出来る限り配信していこうと思います。一度ご覧になって下さい。また、よろしければ、情報提供もお願いします。

●生徒募集

私はまだ高校生だった頃、寮内ではいろいろな方言が飛び交っていました。五島弁、奄美弁、長崎弁。「さあまな……」、「おいが……」、「わんが……」等々。懐かしいですね。ところが、今ではこんな方言が聞こえてきません。少子化の影響は大きく、特に、神学生を希望する生徒が激減しています。

コルベ神父様が創立された学校です。やはり、その教えを伝えていく若者たちが必要だと思います。もしも、一般生、特に神学生を希望している方、または、興味を抱いている方を存じてあれば、是非、「聖母の騎士」をお薦め下さい。今の世の中だからこそ、そういう人材が求められているのだと思います。

●会費納入のお願い

本同窓会は小さな団体ですが、結構頑張つて有益な活動をしているのではないかと思います。この会報もそうですが、他にも、例えば奨学金も少ないですが、他にも、例えば奨学金も少ないストックの中から少額ながら捻出しています。しかも、成績優秀者のためではなくて、本当に必要な生徒のために。クラブ活動への援助金も増やしてあげたいですし、その他、学校、生徒の為にしたいことが沢山あります。

同窓会の運営は、皆さんの会費で成り立っています。過去には、多いときには寄付金を含めて60万円を超える年もありましたが、近年、会費納入額が下がっており、毎年30万円を少し超える位となっています。十分な年間活動の必要額は、約60万円ほどですが、最近クラブ援助費、学園劇などの援助金、その他を減額して約50万円です。

しています。つまり、現状では毎年20万円ほどの赤字となり、このままでは5年後には会報の発行しかできなくなり、その後は消滅という事になるかと思えます。そうならない為には会費納入が必要です。よろしくお願ひします。

●ミニ便り

※このコーナーは、皆さんが振り込み用紙に書いて下さったお便りを紹介しています。これからも大いにご利用願ひします。(敬称略)

▼同窓会会報いつも有り難うございます。母校の生徒たちの活躍に大変嬉しく思っています。また、卒業生の生き方に大変感動しました。

寝屋川市 萩原儀一

▼今、神奈川県にいます。

平塚市 松元 隆

▼毎年会報を頂き有り難うございます。楽しく、懐かしく読ませていただいています。住所が、比良町9-12が7-13に変更しましたのでよろしくお願ひします。

佐世保市 杉山宣明

▼今年も「英彦の泉」ありがとうございました。皆さんの投稿、楽しく読ま

せていただきました。感謝。長崎以外での総会開催の件については、一度実施してみるのも一案だとは思いますが、まずは、組織として各支部長、事務局の意見集約を望みます。

今里市 岡 信夫

▼ご無沙汰しております。毎回「英彦の泉」楽しく、また懐かしく拝読させていただきますが同封します。例の、同窓会開催地の件、回り持ち、つまり、本部長崎を始め、順次に開くと言うことに賛成します。総会開催ばかりではなく、修道会からのイベント提供の付加価値など加味して2泊3日位の旅行など兼ねて開かれることを希望します。この件は、同窓会会長、大石さんも知っておりますので、ご確認いただければ幸いです。よろしくお願ひします。

我孫子市 今村光義

▼申し訳ありませんでした。先日、同窓会に参加したのですが、会費を払っていませんでした。同窓会は良かったです。先輩、後輩が集まって、楽しいひとときでした。次回も、是非、参加したいです。

諫早市 松尾豊樹

▼今年も会費を送れることに感謝。同級生の中ノ瀬君が天に召されました。

永井博士の本、復刻

ご芳志をお願い致します

平成25年度同窓会の事業の一環として「永井隆博士」の本を復刻することにしました。会員の皆様に、一口3,000円のご芳志をお願い致します。会報に振込用紙を同封しますのでよろしくをお願いします。



趣旨

永井博士は被爆後、聖母の騎士修道院に仮住まいされながら、神学生たちに理科を教えられました。今回復刻する「世界と肉体とスミス神父」は第二次大戦中、ヨーロッパでベストセラーになった本で、現在、日本国内に3冊確認されています。永井博士が、戦後長崎で最初に開設した図書館（うちの本箱）が利用されて52周年を迎えた今年、博士への感謝の意味合いも込め発刊に漕ぎつけたいと計画しました。

阿野修道士の1年後輩です。長崎、飽年のサラリーマン生活にピリオドを打ち、完全リタイアしました。聖コルベが創立された学園卒であることに誇りを感じながら、第2の人生も、また力強く歩みたいと思います。

鎌倉市 平松壽護

奄美市名瀬出身 鹿児島市 安田 誠

▼幹事の皆様、ご苦勞様です。10回の転勤を経て、昨年3月末63歳にて40数

▼サンキュウ「英彦の泉」第16号。奄美支部便り……。すてきですね。私は、旧満州やイタリヤに6年あまり滞在しましたが、奄美にはまだ行ったこ

とがなく、残念。25年の総会、懇親会に是非出席し、久しぶりに母校を覗きたいところですが、果たして行けるかな？ 検討中です。よろしく。

宝塚市 谷掛晴美

▼ご苦勞様です。 赤本喜代次

▼いかがお過ごしでしょうか。マリア様の恵みが、私にも学園同窓会にも多くあるように。

長崎市 高見正明

▼聖母の騎士学園での出会い。絆を大切にしていきたいです。これからもよろしく願ひいたします。

富山市 永栄恵太(母)

▼同窓会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

春日井市 大曾 昭

▼「英彦の泉」を拝読して純真になりました。自然にマリアの賛歌を口ずさんでいます。私は神をあがめ、私の心は神の救いに喜びが躍る……。

桶川市 斉藤 優

▼毎年「英彦の泉」有り難うございます。読んでいくと懐かしい友のことを思い出します。読み終えると「勇氣」をもらっている自分自身に気づきます。

五島市 濱崎清治

▼英彦の泉、楽しみにしています。それぞれの場で、それぞれの使命に燃えて、まだ騎士道が生きていることに感動しています。私も奄美大島出身の68歳。まだ学童保育所で小学生とじやれあっています。9/16、22日まで奄美に帰るつもりです。その時は、奄美支部の皆さん、よろしく。

大牟田市 泊 秀信

▼本年度の「英彦の泉」、興味深く拝読いたしました。菅家社の皆様、ご苦勞様でした。

木場田友次

▼息子(勇太郎)と二人分です。

五島市 峯 重昭

▼阿野先生。ありがとうございます。ご苦勞様でした。天国で見守ってください。

北海道北見市 水野清哉

▼原爆、原発など、広く深い視野に立ち、話し合いをしたいものです。

長崎市 峰 徹

▼同窓会&学園のご発展・充実をお祈り申し上げます。

末吉矢作

▼英彦の泉をありがとうございます。事務局の方々にはいつも感謝しています。

福岡市 白浜雪義

25年度 総会・懇親会 のお知らせ



10月12日(日)開催

会場
コルベ記念館ホール
(御ミサ：コルベ志願院)

総会 17時00分～

懇親会 18時00分～

会費 2,000円

参加お申し込みをされる方は、別紙申込用紙をFAXか郵送していただくか、下記メールアドレス(熊川)に御連絡下さい。

FAX: 095-823-4759

Eメール(熊川): toshi_dominic_kumagawa@yahoo.co.jp



平成24年度 総会にて

原・稿・募・集!!

近況報告を兼ねて「英彦の泉」に投稿してみませんか。同窓生ならどなたでも構いません。思い出、雑感等々何でも結構です。是非、ご協力下さい。

テーマは自由、出来れば800文字程度にまとめて熊川(email:toshi_dominic_kumagawa@yahoo.co.jp)又は聖母の騎士学園へ送付してください。

提出期限は毎年7月20日です。よろしくお願いいたします。

編集後記



英彦の泉のミニ特集「活躍するOBたち」に掲載されるべき方が帰天してしまいました。水浦久之さんです。ご存じの方も多いと思います。水浦さんは、同窓会初代会長を務められ、会報の生みの親でもあり、同窓会の礎を築いて下さった方でもあります。もしも、水浦さんの

存在がなかったら、この「英彦の泉」も生まれることもなく、同窓会組織もこんなに強い絆で結ばれることもなかったでしょう。また、浦上教会でのご活躍、聖母の騎士社でも敏腕編集者として腕をふるうなど、本同窓会だけでなく、長崎のカトリック教会、それから、長崎文学の重鎮としても活躍された方でした。

昨日、水浦さんの、「愛の騎士道(脚本)(聖母文庫)」を読ませていただきました。「神父発見」の脚本や「拝啓 聖フランシスコ様」なども一緒に取められている本です。水浦さんの、五島人、そして長崎人としての「カトリック魂」や、信仰を守り通した先祖への畏敬、そして、今を生きて、これから生きていく者たちへの溢れんばかりの愛情を窺い知ることが出来て、とても、興味深かったです。迷子になりそうな時、皆さんにも是非、読んでいただきたい本です。

水浦さんについて語れば、会報1回分にはなってしまう程の話があります。強面の中で、更に光る眼光……。この人には誤魔化しは通用せん。と腹をくくって、いつも本音で付き合わせていただきました。それだから、とても気持ちの良いお付き合いが出来たと思います。お酒を飲んだときの文学論。人生論等々。とても楽しく、良い思い出です。

さて、氏が遺して下さった「英彦の泉」。私は、第4号から編集に携

わっています。もちろん、時々水浦さんに指導を仰いでおりました。そして、仕上がった時、「今回はマルバ、先生。」という言葉を感じました。本当に嬉しくて、「クソ忙しい中」(もちろん、聖母の騎士社の編集力の役割が大きいのですが……)作った苦労が報われる一瞬でもありました。それから、私も、もう14年間編集に関わってききましたので、こころで引退!と考えていました。次へのバトンタッチをしばらく伸ばすことにしました。それは、跡を継いでくれる人がいないのも一つの理由ですが、もうひとつ、この会報が、水浦さんとの絆でもあるからです。

ここに、「大いに活躍した一人のOB」がいました。ありがとうございました。水浦さん。たまにはそちらから「カミナリ」を落として欲しいなあ!

編集後記を書き終えたとき、米林拓道さんから原稿を頂きました。大変重い内容でした。面識はありませんが、過去に一度投稿していただいた記憶があります。読ませていただき、米林さんには、この世で活躍すべき事がまだまだ沢山あると感じました。お早い回復をお祈りしたいと思います。皆さんも、どうか宜しくお祈りします。今回の「活躍するOBたち」として掲載させて頂きました。(くまがわ)